

例『タデ原湿原を題材として』（対象：中学生）

1 ねらい

ラムサール条約にも登録され、貴重な動植物が今も姿を見せてくれるタデ原湿原について、自らの目で動植物を観察したり、ボランティアガイドとして活躍する「くじゅうの自然を守る会」会員や観光客の思いを聞き取るにより、自然保護と観光資源の開発という相反する現実に関わり、今後のタデ原湿原のあるべき姿を考え、行動に結びつけることができる。

2 学習計画 5月～10月（12時間扱い）

- ① 現地学習（3時間）
 - ア ボランティアガイドとともに、湿原散策。
 - イ ガイドの仕事に対する思いや苦勞の聞き取り調査。
 - ウ 観光客への聞き取り調査（来た動機や実際に来てみての感想等）。
- ② レポート作成（1.5時間）
 - ア 聞き取り調査の結果をグループ毎にレポートにまとめる。
 - イ レポートをまとめる段階で、相反する考えがあれば、課題として取り上げさせる。
- ③ 課題の出し合いとテーマの設定（1時間）
- ④ テーマの検証（2時間）

出された課題から、「よかった」「悪かった」2つのグループに分かれ、それぞれが正しいという立場で根拠を探す。

例 『タデ原湿原はラムサール条約に登録されてよかったのか？』

 - 「よかった」の根拠例
 - 貴重な自然が残される。 ●開発を食い止めることができる。
 - 「くじゅうの自然を守る会」の活動が評価される。 ●自然保護意識を広めることができる。
 - 観光客が増えて、ホテルや旅館、レストランや売店の売り上げが増える。等
 - 「悪かった」の根拠例
 - 観光客によるゴミの増加。 ●自動車の騒音の増大。
 - 広い駐車場が必要となり、結果として自然を破壊することになる。
 - 貴重動植物の違法採取が増加する。 ●人気を嫌って動物等の移住が考えられる。
 - 「くじゅうの自然を守る会」の保護活動の負担が増大する。等
- ⑤ 2グループによるディベートを行う。（1時間）

※ どちらが正しいかまで追求する必要はない。数多くの根拠を出し、聞く中から、自分が考えもしなかった一面に気付かせる。
- ⑥ ディベート後の気づきをまとめる。（0.5時間）
- ⑦ 他の地域の事例も調べ、今後のタデ原湿原の在り方を自分なりに考え、今後の自分の行動計画を作る。（2時間）
- ⑧ 考えを発表し、分かち合う。（1時間）

3 評価のポイント

- ① 現地学習で気づきをメモできたか。
様々な立場の人に聞き取りができたか。
- ② 聞き取り結果をまとめることができたか。
課題を見つけることができたか。
- ③ 課題を発表できたか。
- ④ 自分の立場で根拠を探すことができたか。
- ⑤ 相手の意見を聞き、反論すべき所は反論できたか。
相手の意見が的を射ている場合は、受け入れることができたか。
- ⑥ 気づきをまとめることができたか。
- ⑦ ラムサール条約指定の他の地域を調べることができたか。
自分の住む地域に似た事例はないか調べられたか。
今後のタデ原湿原の在り方を自分なりに考えられたか。
自分なりの行動計画を考えることができたか。
- ⑧ 自分なりの行動計画を発表できたか。
友だちの考えを聞き、受け入れることができたか。



【参考資料】

『阿蘇くじゅう国立公園 くじゅうタデ原地域の自然 自然ガイドブック Vol. 11』

<http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/np/asokujyu/topics/21/index1.html> で入手できます。